

高き志【こころざし】

いじめ0…これからも

【前略】 はやとさんは穏やかな性格で、テーマパークのエンジニアを夢見ていた。最近、成人式のスーツの広告が自宅に届いたという。「生きていたら夢に向かって日々を過ごしていたのだろうか」「成人している姿を想像すると、悲しみがこみ上げてくる」 【中略】

約五千字に及ぶ手記の終盤では「息子のように苦しむ子供をつくらないためにも、私たち遺族は真実を語っていく」と決意。わが子に向けたこんな言葉で締めくくった。いつか必ず笑顔で報告する日がくると信じている。「はやと、あなたが生きた証は残っている。たくさんの子供の役に立っているよ」と。

上は、熊本日日新聞、令和3年1月19日付け朝刊に掲載されていた記事からの抜粋です。文からお分かりいただけと思いますが、同級生からのいじめによって自殺した私立高校生の母親の手記をもとにした記事です。記事の趣旨としては、自殺後の学校の対応が法制度にそぐわないものであっても、私立学校の場合、それを改善指導する機関はない、という問題点の指摘でした。しかし、いじめによる自殺の深い悲しみや苦しみが伝わってくる内容でした。ましてや、同級生からいじめを受け、自殺に至るまでの本人の心情を思うと、いたたまれない気持ちになります。

毎年この時期に【熊本県公立学校「心のアンケート」～楽しい学校を送るために～】を実施しています。このアンケートの大きな目的は、各学校のいじめに関する実態を確実に把握し、それにしっかりと対応することです。どの学校においても、冒頭に書いたような悲しい出来事が絶対に起きないようにしてはいけないのです。

このほど、本校の今年の状況がまとまりましたので、概要をお知らせします。【本校児童数：124名】

- ・いじめられたことがあると回答した児童数 35名
（1年：13名 2年：10名 3年：6名 4年：2名 5年：3名 6年：1名）
- ・そのいじめが続いていると回答した児童数 10名
（1年：0名 2年：4名 3年：4名 4年：1名 5年：1名 6年：0名）

このほかにも、いじめに関連するような様々な設問があるのですが、紙面が限られていますので、最も重要な上の2問について掲載しました。

もちろん、アンケート結果を受けて、個別の聞き取りを丁寧に行いました。その結果、受けたいじめや続いているいじめについて、それぞれ具体的に状況を把握することができました。より深刻で繰り返し行われている事象は無いと判断でき、続いていると回答した児童の事象も、関係している児童への聞き取りと指導により、本人が納得した形で解決することができました。したがって、今回のアンケート結果としては、【いじめが未解決で続いている件数：0件】と町教委・県教委へ報告しました。

0件で報告を行った場合は、保護者の方々への周知義務がありますので、今回の学校便りとなりました。なお、ご自分の子供さんについて、「いじめで心配な点がある」という保護者の方は、担任や学校まで早急に遠慮なくご相談ください。

今後お子供たちのため、「いじめ0の学校」が続きますよう、早期発見、早期対応に努めていきますので、方向性を共有し、共に子供たちを見守っていただきますようお願いいたします。